

# センターレポート

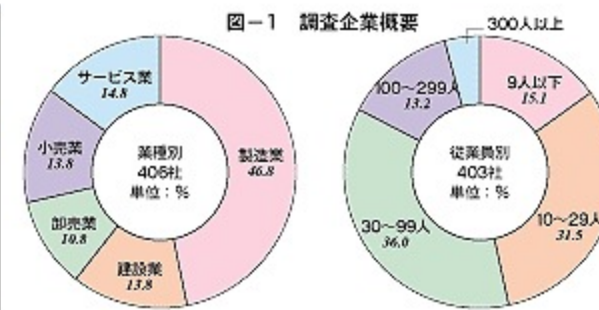
## 非製造業で回復マインド大きく後退

平成13年中での回復の予測は3割弱

－平成13年上半期経営環境予測調査－

### 2000.12月調査

経済企画庁は12月の月例経済報告で「景気は家計部門の改善が遅れるなど、厳しい状況をなお脱していないが、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続し、全体としては、緩やかな改善が続いている。個人消費は、収入がやや回復してきたものの、おおむね横ばいの状態が続いている。生産は堅調に増加、企業収益は大幅な改善が続いている。また、企業の業況判断は全体としては改善のテンポが緩やかになってきており、先行きに慎重な見方もみられる。」としている。このような背景のもと、中小企業の経営者は足元の景気をどのように判断しているのだろうか。平成13年上半期（1月～6月）の経営環境予測調査の結果がまとまったので以下のとおり報告する。

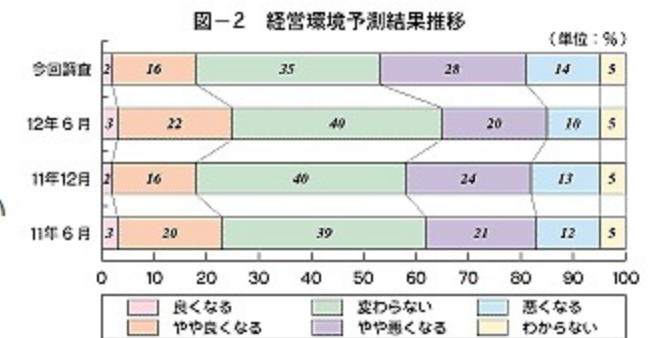


### ●経営環境予測

平成13年上半期（1月～6月）の自社の経営環境の見通しは、全産業で見ると「良くなる」1.7%、「やや良くなる」15.8%となり、これを合わせた良化予測は17.5%。前回調査時（12年6月）の良化予測25.0%と比べ7.5ポイント低下した。

一方、「悪くなる」「やや悪くなる」とする悪化予測を合わせると42.4%、前回調査時（29.6%）より12.8ポイント増加、悪化を予測する企業が良化を予測する企業を25ポイント近く上回り、景気回復への足取りはここへきて重くなっている。

これを自社の属する業界で見ると、良化予測は11.0%、悪化予測は48.1%となり、自社の経営環境見通しより厳しい予測となっている。また、前回調査時の17.5%、35.5%と比べてもいずれも悪化予測となっている。



### ●業種別経営環境予測

自社の経営環境見通しを業種別にみると、「良くなる」「やや良くなる」を合わせた良化予測は、製造業では19.5%、非製造業では15.8%となった。これに対し、「悪くなる」「やや悪くなる」を合わせた悪化予測は、製造業では36.3%、非製造業では47.7%と景気予測マインドは大きく後退、特に非製造業での経営環境の改善が遅れそうな見通しとなっている。

業種別に経営環境の見通しをみると、良化予測が悪化予測を上回った業種は製造業の一般機械および輸送用機器の2業種のみ、そのなかで輸送用機器（57.2%）は良化予測をする企業割合が半数を超えたが、繊維・衣服、木材・木製品・家具では5%前後にとどまり、非製造業では良化予測が悪化予測を上回った業種はなく、建設業での良化予測は10%未満となっている。この結果悪化予測をみると、製造業では繊維・衣服（63.1%）で、非製造業では建設業（64.3%）で6割を超える企業が悪化を予測、その外製造業2業種、非製造業2業種で悪化を予測する企業が4割を超えた。（図-3）

自社の属する業界の経営環境は自社の見通しに比べ厳しい予測となった。自社の見通しに比べ良化予測企業割合は6.5ポイント少なく、悪化予測企業割合は5.7ポイント多い。業種別にみると、良化予測割合が自社の見通しを上回った業種は鉄鋼・金属と電気機器製造業のみ、また、悪化予測割合が自社の見通しを下回った業種も同様となった。この2業種では、県内の企業は業界の回復に比べ若干遅れているものともみられる結果となった。

